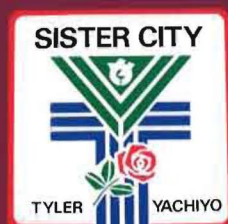


国際姉妹都市交流20周年記念

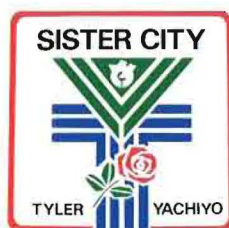
バラでつなぐ20年



八千代市国際交流協会
YACHIYO INTERNATIONAL ASSOCIATION

もくじ

ごあいさつ	3
姉妹都市交流20周年記念誌の発刊に寄せて	4
姉妹都市交流20年のあゆみ	5
協会を支える4つの部会	6
写真で見る姉妹都市交流	8
2012年タイラー市訪問を終えて	14
これまでのタイラー市への訪問団名簿	27



姉妹都市シンボルマーク

1992年8月、八千代市での調印式の際に制作。八千代の「Y」とタイラー市の市章をアレンジしたもの。制作者はグラフィック・デザイナーの真崎軍次氏。

表紙写真／バラは両市のシンボル。テキサス・ローズは黄色であることから黄色のバラを選びました。

ごあいさつ



八千代市国際交流協会

会長 周 郷 紀 男

1992年5月16日——この日、タイラー市のローズ・ガーデンで行われた八千代市とタイラー市の姉妹都市提携調印式から20年の月日がたちました。この間、初代会長の仲村和平氏、2代会長の山崎寿徳氏をはじめ、八千代市の関係者の皆さまには格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。また、私も6回親善訪問団の団長として参加しましたが、タイラー市を訪問したすべての人たちが、タイラー市民の温かい歓迎とおもてなしに深く感謝している旨の感想を寄せており、大変有意義な訪問であったと思っております。タイラー市の関係者の皆様に対し、改めてお礼を申し上げる次第でございます。

また、タイラー市からの訪問受け入れに際しては、行政の特別のご援助を賜り、市民の関係者の皆様方に数か月前から実行委員会を結成し、国際交流協会会員のみならず、全市民をあげての歓迎に、この20年間の両市、両市民の絆が更に深くなったことでしょう。今回、20周年記念として八千代市のご援助のもとに高校生10名を派遣できたのは、画期的な出来事であります。

今後、八千代市国際交流協会が更に発展させるためには、若い人たちのより一層の経済・文化等の交流が必要であります。姉妹都市交流は目に見えない素晴らしい人間関係をつくるものであり、そしてこのことが世界平和につながればと考えております。特に交流のスタートよりカズエ・ジョンソンさんのコーディネーターとしてのご尽力に感謝申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。今後とも姉妹都市交流に皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

姉妹都市交流20周年記念誌の発刊に寄せて



八千代市長
豊田 俊郎

姉妹都市交流20周年記念誌の発行を心よりお祝い申し上げます。また、八千代市国際交流協会の皆様方には平素より八千代市行政にご理解とご協力を賜り、改めてお礼申し上げます。

本市は、市制施行25周年記念事業の一つとして、海外都市との姉妹都市提携を行うこととし、候補市から選定したタイラー市との間で、1992年に姉妹都市交流をスタートしました。以来、両市は親善訪問団の相互派遣を中心に、タイラー市から市内中学校へ英語指導助手を派遣いただくなど交流は多岐にわたっており、市民の国際理解を深めるといふ本市のかけがえのない財産を築くことになりました。

私がこの姉妹都市交流に携わった間にも、貴会の周郷会長とともにタイラー市の名誉市民に、また、その時に訪問した10月16日を「八千代の日」に決定いただいたほか、姉妹都市交流20周年を記念して新たに高校生の親善訪問を行うなど、両市の友好関係が更に深まったと実感いたしております。

本市において、このような国際交流を着実に推進することが出来たのも、貴会の皆様方が、訪問団の派遣をはじめとする様々な行事等の企画や運営にご尽力頂いたお蔭であり、心から敬意を表し感謝申し上げます。

結びに、本市の国際交流がより一層推進していきますよう、皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げますとともに、貴会の今後ますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

姉妹都市交流20年のあゆみ

- 1991年 5月 富岡助役を団長とする市職員一行5名の調査団が姉妹都市提携について協議するためタイラー市を訪問
- 1991年 9月 派遣依頼してあった2名の英語指導助手（ALT）が八千代市に着任
- 1991年10月 八千代市議会議員15名が28日、29日の両日タイラー市を訪問
- 1991年12月 平成3年第4回定例市議会に姉妹都市協定の締結案を上程
- 1991年12月 同議会において全会一致で姉妹都市協定の締結案を20日に可決
- 1992年 1月 テキサス大学タイラー校ハム学長夫妻が事前調査のため16日から18日まで八千代市を訪問
- 1992年 5月 姉妹都市提携調印式を行うためタイラー市へ訪問団26名を15日から19日まで派遣
- 1992年 8月 姉妹都市提携調印式を市民会館で行うためタイラー市親善訪問団（団長／ノーマン・シュトフマン氏）33名の受入れを22日から28日まで行う
- 1993年 4月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団20名が15日から18日までタイラー市を訪問
- 1993年12月 タイラー市から中学生サッカーチーム（選手17名・保護者等11名）を22日から28日までコミュニティ・ワールド・カップ・サッカーin八千代「中学生の部」に参加のため受入れを行う



- 1994年 3月 市民団体等で組織される八千代国際姉妹都市委員会を30日に設立
- 1994年 5月 達窟谷庸介氏を団長とする親善訪問団9名が19日から22日までタイラー市を訪問
- 1994年10月 タイラー市親善訪問団（団長／ノーマン・シュトフマン氏）41名が25日から29日まで八千代市を訪問
- 1996年 3月 八千代少年少女合唱団（指揮者／長岡利香子・団員46名・保護者等12名）が24日から28日までTJCでコンサートを開催するためタイラー市を訪問



- 1996年 4月 山崎寿徳氏を団長とする親善訪問団42名が18日から22日までタイラー市制150周年記念祭に参加のためタイラー市を訪問

- 1997年 8月 タイラー市親善訪問団（団長／パット・ジョーンズ氏）71名（内TJC関係者43名）を21日から25日まで受入れを行う



- 1998年10月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団28名が15日から19日までタイラー市を訪問
- 2000年 8月 タイラー市親善訪問団（団長／パット・ジョーンズ氏）39名を18日から22日まで受入れを行う
- 2002年10月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団32名が17日から21日まで姉妹都市提携10周年を記念してタイラー市を訪問
- 2004年 8月 タイラー市親善訪問団（団長／ゲイリー・スウィドル氏）14名を20日から24日まで受入れを行う
- 2006年 1月 八千代市国際交流協会が21日に発足。国際姉妹都市部会・語学ボランティア部会・日本語指導ボランティア部会・国際交流促進部会の4部会で構成
- 2006年 3月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団15名が27日から31日までタイラー市を訪問
- 2006年 3月 八千代少年少女合唱団（指揮者／長岡利香子・団員39名・合唱団もりのうた等26名）が25日から31日までTJCハーモニー&アンダースタンディングとのジョイント・コンサートを開催のためタイラー市を訪問
- 2007年 6月 タイラー市親善訪問団（団長／ベティー・パウアー氏）33名を29日から7月3日まで受入
- 2008年10月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団18名が15日から20日までタイラー市を訪問。「八千代の日」がタイラー市により制定
- 2010年 7月 タイラー市親善訪問団（団長／ヘンリー・ベル氏）25名を15日から19日まで受入れを行う
- 2012年10月 周郷紀男氏を団長とする親善訪問団44名が17日から22日まで姉妹都市提携20周年を記念してタイラー市を訪問。その内高校生10名（23日帰国）は初めての派遣。18日市庁舎訪問記念にバーバラ・バス市長からこの日を「タイラー市・八千代市の姉妹都市の日」とすることが宣言
- 2013年 3月 25周年を記念しTJCからチア・リーダーチーム「アパッチ・ベルズ」とバンドチーム「アパッチ・バンド」が来市。10日が公演（観客数1,200人）で11日が「市内めぐり」



協会を支える4つの部会

国際姉妹都市部会

副部長／小林公孝

アメリカ第34代アイゼンハワー大統領が市民「ピープル・トゥー・ピープル」の関係による国際親善の重要性を喚起、1956年に国際姉妹都市提携を提唱してから世界的に提携が盛んになったと言われております。

八千代市も1992年にアメリカ合衆国テキサス州タイラー市と姉妹都市の提携をむすび、国際姉妹都市活動をスタートしました。そして2～3年ごとに八千代市とタイラー市の多くの市民が交互に訪問し合うことになりました。

提携してから20年が経ちましたが、この間、国際姉妹都市部会の会員及び多くの関係者の多大なご協力を得て、大変密度の濃い交流ができ、友好・親善の役割を充分果たしてきたと思っております。現在、国際交流協会の団体会員は19、個人会員は108名となっております。

昨年10月、タイラー市への20周年記念訪問団（豊田市長・高校生を含む総勢44名）はタイラー市民により大歓迎されました。更に訪問団が市庁舎を訪問した10月18日を「タイラー市・八千代市の姉妹都市の日」とするとバーバラ・バス市長が宣言をされました。これにより両市の絆はますます深いものになったと思っております。

国際交流の意義は、市民の相互派遣、文化、教育等多面的な交流を推進、そして21世紀の国際化時代に向けて交流活動を活発化させ、多くの市民が直接接触することにより国際的な視野や識見が醸成され、更に友好を深めることにあります。小さな市民外交であると思っております。姉妹都市タイラー市とは、更に友好の輪を広げたいと思っております。

（※桑原将彦部会長が長期海外旅行により留守のため代筆）



語学ボランティア部会

部長／瀬下和正

タイラー市との姉妹都市交流が20周年を迎えたことに際し、語学ボランティア部会からお祝いを申し上げます。

タイラー市との係わりは1991年秋、八千代市役所から頂いた一本の電話が始まりでした。この年の春、八千代語学ボランティアの会を設立し会長になったばかりのころでした。米国と姉妹都市提携をする計画があるので手伝って頂きたいとの内容でした。その間、一貫して姉妹都市交流に通訳としてお手伝いできたことを嬉しく、また誇りに思っております。語学ボラの会は当時、千葉県国際交流協会に通訳として活躍していた八千代市在住の14名で発足しました。この中で現在でも会に在籍しているのは長尾みち子さんと当方の2名になりました。1992年第1回訪問団に語学ボラ部員を派遣して以来、タイラー市訪問団には常に語学ボラ部員が同行しています。

タイラー市との姉妹都市交流を通し、忘れられない英語が2つあります。「You did a big job.大変良くできました」、21年前仲村市長への表敬訪問に際し、当方の市長通訳が終わると同時に多くのタイラー市民にほめられました。当時、タイラー市からの訪問団にとって日本人が正確な英語を話すことに驚いたと思えます。「He speaks perfect English.彼は完璧な英語をしゃべります」、18年前成田空港のバスの中でカズエ・ジョンソンさんが当方を紹介するときに言いました。この後、マイクで歓迎のあいさつをいたしました。この後、相当緊張し、冷や汗をかいたのを覚えています。

これからの語学ボラの課題は、姉妹都市交流の中で通訳として充分対応するため、多くの人の前でマイクを持ってしっかりと正しい英語を話す人を増やすことです。今は、若い通訳の後継者が育ってきていますが、今後、彼らが通訳として大きく活躍することを願っております。



日本語指導ボランティア部会

部長／齋藤貴美子

コックさん、研修生、会社員、自営、アルバイト、主婦等職業は様々ですが、教室内では異国籍の学習同志の日本語での会話も弾み、カラオケパーティやタイの学習者による地域のタイカレー講習会、中国の学習者は手作り肉まん持参で町会のお茶飲み会に参加したりと、教室外での草の根の国際交流も活発です。

平成20年には、村上地域の就学年齢にある子どもたちを対象に、鈴木正俊さんが「AMIGO こども日本語教室」を立ち上げ、高校受験の進路指導や夏休みの「サバイバル日本語教室」で2学期の登校に備えた環境づくりを進めて早5年、楽しそうに集う子どもたちの笑顔にボランティアも元気をもらっています。また「高津土曜会」教室代表の後藤国寿さんは防災士としてのキャリアを生かし、多方面で防災講習会を開き、日本語教室の学習者や多くの外国人に災害から身を守る心構えを訴えています。

21年前に美川克子さんが村上公民館で八千代市で初めての「村上月曜会」を本格的に立ち上げて以来、市の協力のもと、多くのボランティアの皆様を支えられ、日本語教室は今年4月に10教室が開講し、今日まで発展を続けることが出来ました。始めは主婦のボランティアがほとんどでしたが、リタイアされた海外経験豊富な力強い壮年の皆様も次々と参加され、学習者のニーズに応える教室づくりを展開しています。5教室に連続して通う熱心な学習者や日本語検定試験に挑戦する学習者も多くなる一方、帰国した学習者たちからは、メールで近況を元気に報告してくれることもあり、嬉しい限りです。一時帰国の学習者からのお国自慢のお土産が教室内を回り、中国の月餅、ベトナムのスティックコーヒー、ブラジルの煮豆、お菓子等、いながらにして世界の味を賞味できるひとは、講師も学習者も童心に戻ります。

これからも国籍や言語の壁を払い「世界は一つ」の教室で、心が通い合う温かい居場所づくりと日本語習得への工夫と研鑽をボランティア講師自身も続けてまいります。



国際交流促進部会

部長／岩井 寛

国際交流促進部会は、諸外国の文化・習慣等の講演会やスポーツ交流、パーティなどを開いて触れ合う機会を設け、国際交流の多様な文化を知ること、またより理解を深められるような事業を行うことを目標としています。

交流協会発足時からしばらくの間は、なかなか事業の方向性が見出せなく、促進部会員をはじめ協会の皆様にご迷惑をかけていました。協会も年を重ねるほどに、国際交流協会で他部会に属さない国際交流促進につながる情報や共有を図れる事業があるのではないかと部会内で近年常に議論を重ねています。

八千代市多文化交流センターの現状を踏まえた多文化共生のあり方についての講演会でも、大きな交流のイベントも良いが、ホームパーティのような人の集まりは少なくとも、出会いの機会を多く持つ方が親しみを深めることができると提案がありました。

また、当協会員を見たところ、在住外国人の会員はほぼ在籍なしに等しい状況です。

現在グローバルな社会となっており、八千代市にも多くの在住外国人が生活しています。国際交流は国内で出来るし、また必要になってきています。促進部会では、在住外国人の方々に声をかけ、昨年度からミニパーティを開催し、サークル活動的な運営を目指し、協会と外国人の方とのネットワークが構築できればと、事業展開しています。

また、より身近に外国の文化や慣習などを感じる事業として、在日大使夫人との懇談会の開催、そしてシリーズ化に取り組んでいます。



写真で見る姉妹都市交流

1992年（平成4年5月／派遣）

5月16日、ローズガーデンで八千代市側37名、タイラー市側およそ60名が参列する中、姉妹都市協定書に両市長がサイン。これから姉妹都市交流がスタート。



1993年（平成5年5月／派遣）

（仮称）八千代市国際姉妹都市委員会設立に向け、タイラー姉妹都市委員会の活動状況等を視察したほか、関係団体との個別懇談会も行いました。



1994年（平成6年5月／派遣）

3月発足した八千代国際姉妹都市委員会初の訪問団。タイラー市民との親善交流は勿論、ボランティア施設視察、ホームビジットや関係団体との懇談などを実施。



1992年（平成4年8月／受入）

ふるさと親子祭りの翌日、8月23日に八千代市での姉妹都市提携調印式。両市長は今後の交流が市民一人ひとりの相互理解にかかっていることを確認しました。



1994年（平成6年10月／受入）

第2回目のタイラー市からの訪問団。市長表敬訪問や両市の代表による記念植樹、市長との教育交流懇談会、レールボルト締結式への参加などを行いました。



1996年 (平成8年4月/派遣)

市制150周年記念祭に市長、議長などが参加。心温まる歓迎を受けたほか、市民から預かった日本文化を紹介する書籍等を市長から図書館長に手渡しました。



1997年 (平成9年8月/受入)

第3回目のタイラー市からの訪問団。市制30周年記念で花火見物、「リオのカーニバル」のダンスパレードを見学したほか、姉妹都市ふれあいコンサートを実施。



1998年 (平成10年10月/派遣)

第5回目の訪問団。市長表敬訪問、ローズクイーン戴冠式、石油博物館、病院や農場の見学のほか、市長は引き続き英語指導助手の派遣を大学学長に要請。



2000年 (平成12年8月/受入)

第4回目のタイラー市からの訪問団。花火大会や日本文化を体験したほか、平成9年からの文通が縁でハーバード中学校の生徒たちが大和田西小学校を訪問。



2002年 (平成14年10月/派遣)

第6回目の訪問団。姉妹都市提携10周年を記念し、新市長への表敬訪問、各種パーティへの参加、ローズフェスティバルの見学、ホームビジットなどを実施。



2004年 (平成16年8月)

第5回目のタイラー市からの訪問団。市長表敬訪問、文化伝承館で茶道やお琴・書道・生け花を体験。ふるさと親子祭に参加。岡村陶芸工房で陶芸作りなどを実施。



2006年(平成18年3月/派遣)

第7回目の訪問団。市長表敬訪問、アゼリア祭りの見学、各種パーティへの参加など、タイラー市民と積極的に交流ができ友好の絆を深めました。



2007年(平成19年6月/受入)

第6回目のタイラー市からの訪問団。国際交流協会では実行委員会を組織。ふれあいプラザで茶道、尺八、琴などの邦楽や書などを体験するイベントを開催。



2008年(平成20年10月/派遣)

第8回目の訪問団。市庁舎前にシスター・シティズ・ローズガーデンを開設。記念プレートやベンチを設置。テープカットした10月16日を「八千代市の日」に制定。



2010年(平成22年7月/受入)

第7回目のタイラー市からの訪問団。国際交流協会では受入実行委員会を立ち上げ、ウェルカムパーティ、東京成徳大学での日本文化の体験、バス見学などを実施。



2012年(平成24年10月/派遣)

第9回目の訪問団。姉妹都市交流20周年記念式典などに参加したほか、18日を「八千代市とタイラー市の姉妹都市の日」にすることに決定。高校生10名を初めて派遣。



2012年

タイラー市訪問を終えて

(順不同・敬称略)

■今泉若菜

八千代松陰高校3年

「アメリカから帰国して、表情が今まで以上に明るくなったね」これは私が帰国して最初に学校の友達に言われた言葉でした。自分自身でもテキサスから帰国して今までの自分より一回り成長できたような感覚を抱いていたところでした。大きな道、大きな家、大きな庭や草原、多くの食事。とにかくテキサスは全てのものが日本とは比べものにならないくらい大きく私の目は開きっぱなしでした。そして、テキサスの人は皆、表情がとても豊かで顔で自分の気持ちを表現しているようであり、握手やハグなど体で接する分、人の優しさ温かさを直接感じることができました。

一方で、私は他国での文化の違いも経験しました。フォートワースの道端にカウガールがいました。\$5で馬に乗らせてくれると言われたけれど馬には乗らず写真だけ撮らせてとお願いしたところ笑顔でOKと言われました。しかし、写真を撮り終えると\$5請求されることに…。結局、通訳さんが解決してくれたのでよかったけれど、写真を撮る時はお金がかかるなんて言ってなかったのに。あの笑顔を必ずしも信じてはいけなかった。ということを経験しました。このように1週間という短い期間ではあったけれど、今回の訪問を通してテキサスの方々からたくさんの愛情や笑顔、温かさを、自然や建物からたくさんの驚きを、そしてフォートワースでは苦い思い出を身を以って体験させてもらいました。きっとこの愛情、感動、失敗を含めた全てが私を大きく成長させてくれ、これが帰国してからの私に大きな心の変化をもたらしてくれたのだと思います。

最後に今、現地でこのような皆さんの感謝の気持ちを言葉で伝えきれなかったことに少し後悔をしています。もっと英語を話せば、もっと語彙力があればこの気持ちを少しでも伝えられたのに、と。なので逆に、この気持ちを糧にして今後もっと英語を勉強し、世界中の人たちとコミュニケーションを取れるようになり、海外との交流を深めていけるようになりたいです。そして、アメリカだけでなく皆さんの国の文化を知り、理解することで自分の視野をもっと広く世界へ向けられるようになりたいです。

■入江魁刀

千葉英和高校3年

「人の温かさ」。驚きでした。高校一年の時に語学留学に参加してアメリカへ行ったことで、僕は国際交流をわかった気になっていました。しかし、タイラー派遣を通して、自分の見る世界が広がりました。今回の派遣で感じたことはとても書きつくせません。その中でも、人の温かさについて、特に二つ印象に残っています。一つは高校訪問です。英語を上手く使えないまま、アメリカの高校生と交流するのはとても不安なものでした。けれども同じ世代ということもあったのでしょうか、言葉は上手く通じなくても、お互い心を通わせることができました。それだけでなく、学

校で二言三言程度しか話さなかった数人からメールも届きました。覚えていてもらえたことがとても嬉しかったです。また、積極的に人との関わりを持つことの素晴らしさを知ることができました。二つ目は、20周年記念式典でのスピーチです。普段から大勢の前で英語を話すことなどない僕は、言葉に詰まってしまい失敗してしまいました。けれども、パーティーが終わった後、高校一年くらいの男の子から、僕の祖父と同じくらいの年齢の人まで、幾人もの人が次々と声をかけてくれました。失敗で気持ちが沈んでしまっていて、交流どころではなかった僕にとって、声をかけてもらえた事は、何よりの支えになりました。落ちこんでいた僕のその後のパーティーの時間は、心が温まっていて、明るい気持ちで過ごすことができました。

ソーシャルネットワーキングサービス等により、コミュニケーションがとりやすくなっている昨今、国境を感じない社会になりつつあります。その中で直接のコミュニケーションでしか感じられない人の温かさを今回僕は学ぶことができました。タイラーの人たちとの絆を大切に、これからの国際社会を担っていきたくです。そのためにも、自分の確固たる意思を持った人間になる努力をしていこうと考えています。

最後に、高校三年の忙しい時期に後押しをしてくれた担任の先生、クラスの友達、一緒に行動してくれた、国際交流協会の方々、市の職員の方、そして、9人の高校生の仲間たちに感謝します。自分は一人では何もできないこと、人との支え合いが大切なことを学ぶことができました。ありがとうございました。



■白鳥友風

昭学院秀英高校2年

私はこのタイラー市派遣を通して様々なことを学び、本当に大切な、一生ものの思い出ができました。まずは、学んだことのいくつかを紹介します。一つ、大きなことは、日本人とアメリカ人との違いです。日本人は、何かと保守的になりがちであり、自己主張が弱く、周りの人々の意見に流されがちだと聞いていたのですが、アメリカの人達と関わり合い、確かにそうだな、と実感しました。日本人はよく相手を気付かたりして遠慮したり愛想笑いなどを浮かべて、自分の本心を隠す傾向にあると思います。しかしアメリカ人は、自分の意見をしっかりと伝えていました。例えば授業中、そこには生徒と教師との間に多くの質疑応答がありました。分からない所、気になることをしっかりと聞いていました。これは日本でもあることですが、違いは、皆の前で、すぐに質問していたということ。また、レストランで、向こうの人はウェーターに料理を注

文するとき、「私は〇〇アレルギーだからそれを抜いて」、「これが嫌いだから抜きで」などと、注文に注文を重ねていました。日本人だとこれを少し面倒などと思う人もいるかもしれませんが、これが会話となり、コミュニケーションもよくとっていました。ウェーターの人もよく話しかけてきてくれて、とても楽しい食事でした。どっちが良い、悪いじゃなくて、現地の生活を直接体験することで楽しく学べました。それと、アメリカでの思い出について。私はグレイスコミュニティ高校へ行って授業を見たり、夜にその高校の人がでているフットボールの試合を見にいった、実際に応援団の人に交ざってシンバルをノリノリで叩いてものすごく楽しく応援しました。向こうの人は女の子でもノリがとても良いので、一緒におどって本当に楽しかったです。他にも、パーティーで楽しく会話したり、ゴルフしたり、敷地内を車で回って実際に運転してみたりと、思い出さずこうゆうもんだな、と心から思えるものがたくさんできました。この素晴らしい派遣企画と、お世話になった人たちに、心から感謝しています。



■巨 健太郎

船橋芝山高校1年

成田空港からアメリカのダラス空港に出発する前、正直とても緊張していました。アメリカには無事に着くだろうか？英語はちゃんとしゃべれるだろうか？と不安もたくさんありました。しかし、アメリカに着いてからはそれほど緊張したり不安がつのったりはしませんでした。逆にものすごく興奮しました。

初日はあまり交流という交流はなかったけどスタジアム見学ではめったに入れない部屋などに入れて感激しました。二日目から最終日の間にあった大学訪問や高校訪問、ホームステイやローズフェスティバルパレードなどでは自分から積極的に英語を使って話すことができました。まず、高校訪問では高校生とサッカーをしたり、経済学や地学の授業をパートナーと一緒に受けたりしてとても楽しく交流を行うことができました。ローズフェスティバルパレードでは、国際交流組で浴衣を着てパレードに出ました。パレードの最中、時折観客席から「コンニチワ」とか「アリガトウ」などの日本語が聞こえてきて、「あ、アメリカの中でも日本語は結構知られてるんだな〜」と思いました。

僕はこの八千代市とタイラー市の（日本とアメリカ）の交流会に参加できてとても良い経験になりました。実際アメリカに行って、アメリカの人たちと会話をしたりしたけれど、あいさつ程度の会話はたくさんできたけど、日常生活の内容を取り入れた会話などできちんと質疑応答できたのは、指で数えるくらいの回数しかありませんでした。英

語の授業で謝る時に使っている I am sorry. はほとんど使われずに Excuse me. などが使われていたりびっくりすることたくさんありました。これを学校の人たちに知らせると、とてもみんな驚いていました。だから、僕はこの国際交流を通して学んだことを、周りの人たちに教えたり、これからの日本の国際化にそなえてしっかりと英語について勉強しようと改めて思いました。

■大角麻亜紗

県立船橋高校1年

「一週間」。私は今回の旅行が初めての海外旅行でいろいろなことを学ぶことができました。まず私が実感できたのは、タイラーの方々のあたたかさです。私のことを知らないはずなのにあいさつをしてくれたり、笑顔で出迎えたり声をかけてくださいました。そのおかげもあり、積極的に声をかけることが最初よりはできるようになったと思います。また、私はアメリカにいた一週間は本当に夢のように感じました。テレビでたまに見たテキサスレンジャーズの球場に入ったことや素敵なパーティーにいくつも参加できたことやローズフェスティバルに出演者という形で参加できたことなど全てのことが何日もたった今でもまだ実感がわきません。また私はただの道や標識や本当に単なるものにさえ感動を覚えました。食べ物、部屋、服装、顔、全てが日本の面影すらなく私にとっては全く新しいものでした。言葉で表すのは難しいですが本当に一生でもう二度とないかもしれない経験をさせていただきました。

特に私の印象に残ったのはタイラーの高校訪問です。私は音楽、聖書、歴史の授業を受けました。学校はテレビで観たままの雰囲気だったし特に音楽の授業は同じ高校生なのにミュージカルみたいでとてもすごかったです。また私の高校は宗教には何のゆかりもない高校なので聖書の授業は新鮮でした。言葉では上手く説明することはできないけれど、本当に私の人生の中で深い思い出となる旅行になったと思います。やはり英語を勉強しているだけでは英会話にはできないなと思い、もっと英語や英会話ができるようになりたいなと思いました。この10人と国際交流協会の方々などとタイラーへ行けるといのはもう二度とないかもしれません。けど今回学んだことや得たことを生かして今後の生活に生かしていきたいです。また行かせてくれた両親や、私を選んでくださった方々、一緒に行った高校生の仲間たちや米ノ井さんや今回出会った全ての人に感謝したいです。

■大空未弥

津田沼高校2年

そこには、簡素に「あなたをタイラー市派遣青少年に決定いたしましたので通知します」と記されていた。私がこの企画を知ったのは偶然だった。母が公民館で働いているため、こういう企画があるらしい、と教えてくれた。私は昨年、英語学習と称してアメリカへ渡航したのだが、様々なカルチャーショックの大きさと、私の肝の小ささが原因で楽しいだけの旅行となってしまった。英語をあまり話せなかったのだ。それを後悔していた私には、この企画は正に柵から牡丹餅、であった。

派遣されて一番心に残ったのは、パーティーである。私は生まれてこの方パーティーなどの華やかな会に出ること

はない。もちろんテーブルマナーも知らない。それが言葉も片言でしか通じない異国で行われているパーティーに出席しているなんて、奇妙きつとしか言い様がない。と、今の私は思う。タイラー市にいたときはだいたい目の前に起こっていることへの対応に必死で、自分を客観的に見ることを怠っていた。その時間が取れる位、余裕綽々と英語を話せるようになりたい。少し脱線したので話を戻すと、私はパーティーで驚き、感動し、喜んだ。いつどこの、と限らず全てのパーティーにおいてである。そしてそのパーティーの全てにおいてそれらの感情を抱いたのである。ナフキンが置いてあること、スプーンやフォークが二セットずつ並んだりしていたこと、前菜というものがあること、飲み物がいつも水と何かもう一つドリンクが用意されていること、そして食事を運んでくれる人がウェイトレスだけでなくウェーターの人がかなり多かったこと。とても良い経験になった。私の拙い文章力ではうまく伝えきれないけれど、パーティーの良さはconnectionという語に凝縮されていると思う。人は誰でもつながりを求めている。だから、言葉ができて、文字ができて、今日ではインターネットで世界中がつながっている。パーティーは単なる社交の場ではなく、人と人とをつなぐ場である。たとえ一期一会の縁でも、一瞬つながったことに変わりはない。これはすべて私の見解でしかないのが実際のところはわからないが、これが私のパーティーに対して感じた想いである。

タイラーから帰ってきて思うのは、私の英語の能力の向上と、また英語圏の国へ行くことである。

■木村 萌

県立船橋高校1年

私は倫理という科目が好きです。アメリカに行くからにはキリスト教を感じてきたいと思っていました。実際現地に行ってみると、食事前のお祈りだけでなく、ホテルの引き出しに聖書があったり、至るところでキリスト教の存在を感じました。

特に印象に残ったことは、グレイスコミュニティ高校で受けた、「チャペル」というキリスト教の授業です。全校生徒がホールに集まり、聖書の朗読を聞き、歌を歌い、お祈りをしていました。彼らは歌いたくて歌い、心から祈っているようでした。先生が一方的に話す受け身の授業ではなく、その場に居る全員がその集会を楽しんでいました。キリスト教の精神を愛し、その精神が彼らに染みついているのだと思います。私はその姿をととてもすてきだと思いました。タイラーの高校生には、心と行動に矛盾がないように感じました。それは聖書の教えであり、彼らの生まれ育った環境のおかげだと思います。心から行動することは、私たちが生きていくうえで、とても大切だと思います。そして、そのような精神をつくるためには、何か共通した柱が必要だと思います。それは宗教でなくてもいいと思います。今の日本には、どう生きればよいかという規範になるものはありません。人々の生き方がばらばらだと、判断を誤って全員で悪い方向に行くこともないけれど、一丸となって頑張ることもできません。これから日本を支えていく上で、何をすることが大切なのか。これは難しい問題だけれど、私も考え続けていきたいと思っています。

今回、これから生きていくうえで大事なことを学ぶことができました。もっと彼らについて知り、そのうえで自分

や日本のことを見直したいです。そのためにも、タイラーの方々との交流を続けていきます。最後に、引率して下さった方々、歓迎して下さったタイラーの皆様、私をタイラーに行かせてくれた家族を含め、お世話になったすべての方に心から感謝します。



■横川舞夏

成田国際高校1年

この一週間の経験は私の物事に対する考えや将来の生き方などあらゆる方面において多大な影響を与えるすばらしいものになりました。短い時間ではありましたが、いつも生活し慣れ親しんでいた土地を離れ生活したので、生活の些細なひとコマさえもとても新鮮に感じる事が出来ました。

私の一番思い出に残っていることは両国の文化の違いです。今回私は多くの場面で、文化の違いを感じることができました。その中でも学校交流が一番心に残っています。学校交流が一番文化の違いを体験できたのではないかと思います。一人の生徒について授業を何クラスか受けましたが、やはり日本とは違うなという感じでした。一番違うのは先生が教室を動くのではなく生徒が教室を移動することです。しかし私の印象に残ったのは授業の雰囲気です。アメリカの授業の雰囲気は日本とはかなり異なります。まず、生徒が挙手して発言することが非常に多いと感じました。日本だと先生が問いかけても、誰も返答しないという場面もよくおこります。しかしアメリカでは違い、どんな些細な質問でもみんなが実に積極的なことに驚きました。もう一つ驚いたのは先生と生徒との距離が近いということもあり、カジュアルな雰囲気です。授業が進んでいるということ。日本の静かだただ板書するだけの授業とはやはり違うなと感じました。

次に感じたことは、アメリカ人はフレンドリーだなということです。全ての人々がそうとは限りませんが、とにかくアメリカでは見知らぬ人にも平気で話しかけてきます。そしてあたかも知人のようにフレンドリーに話す、日本ではあまり見ない光景です。学校訪問やパーティーなどで接するときもとても親切でした。私は初め緊張していましたが、みんな私に優しく話しかけてくれました。しかも、私にもわかるようにゆっくりと簡単な英語で話してくれていました。また、目が合ったときにはニコリとして「タイラーはどう？」などと話しかけてくれます。日本では目が合っても逸らしてしまったりするので習慣の違いだなと思いました。今回私は思い出を写真にもおさめたかったので、たくさんの写真を撮りました。クイーンズティーパーティーなどでとてもステキな人を見つけると、す

ぐ一緒に写真を撮ってほしいとお願いしにいきました。すると全員が快く引き受けてくれました。これはまさにアメリカならではの経験だったのかと思います。そして、この一週間において一番の経験になったのはやはり生きた英語に触れたことだと思います。ホームステイの時などに会話する時も教科書で習ったフレーズを言ってみる、当たり前ですが教科書どおりのシチュエーションにはなりません。私はつたない英語で会話を続けます。続けるには間違ってもいいから話すことが重要で、会話の場では文法がどうよりよりも単語を並べ話することが大切なんだということに改めて気がつきました。少しの些細な会話も私にとっては生きた英語を学ぶ貴重な機会となりました。

最後にお世話になった方々に感謝するとともにアメリカで経験したことを忘れずに、今後の八千代市の国際交流に積極的に参加していきたいと思っています。



■武村智花

成田国際高校1年

私は、今回初めて外国に行きました。小さいころから英語が好きで外国の文化に興味があったので、アメリカに行けるとわかった時はすごく嬉しかったです。

私がアメリカに行き、一番楽しかったことはたくさんの人と交流できたことです。私は国際高校に通っているのが普段から外国の人と話をしたり、外国人の先生の授業を受けたりしています。しかし周りの人がみんな外国人というのは初めてで、最初は自分の英語が通じるのかという不安はとても大きかったです。いざアメリカに行ってみるとたくさんの人が話しかけてくれて私の英語を一生懸命理解しようとしてくれました。それはとても嬉しいことで、私も自分から積極的に話しかけることができたと思います。また自分の英語でも少しは通じるということがわかったので自信に繋がりました。最初に自分が予想していたよりも多くの友達をつくることができました。そして一緒に行った高校生9人も仲良くなれたしお互いに助け合いながら良い刺激を受けたと思います。

私はもう一つ嬉しかったことがあります。それはたくさんの人が日本の文化に興味を持っていてくれたということです。「これは日本語では何と言うの?」や「日本ではこういう時はどうするの?」など日本について色々な質問をされました。例えばレストランにみんなでいった時に料理を運んで来たウェイトレスの人が紅茶を指さして何度も「モチャ」と言っていました。初めは何を言いたいのかわからなかったけど「オチャ」つまり「お茶」と言いたかったようです。少し違っていただけ日本人の私たちが来たから日本語を使おうとしてくれたということがなんだかとても

嬉しかったです。

今回のこの経験は本当にかけがえのないものになりました。自分自身大きく成長できたと思います。これからもこのような機会があればどんどん参加して自分の視野を広くしていきたいです。

■和多田 桃

津田沼高校2年

私が今回の高校生派遣の話を知ったのは、7月に入り締めきりがもうすぐ終わるところでした。英語を勉強したいという気持ちも強くあり実際に外国を訪れてみたいと思っていたので、とても貴重な機会だと思ひ応募しました。しかし自信はなかったもので、八千代市の代表の一人として選ばれた時は本当に嬉しかったです。と同時に責任感も強く覚えました。長いと思っていた二ヶ月という月日はあっという間に流れ、いつの間にか日本を離れる日になっていました。アメリカに行くことはもちろん、飛行機に乗ることすら初めてだった私はこの日を心待ちにしていました。

飛行機に乗って時間が経つにつれ、アメリカの広大な景色が窓の外に見えてきました。道路の面積や車の大きさや色んなものが日本とは異なっていて、目に映るものが全て新鮮でした。ダラスフォートワース空港に着き税関や検疫をすませた後はバスに乗り、ストックヤーズへ行きました。牛やテンガロンハット、ウエスタンブーツをはいたカウボーイがいて、まさにテキサスという町なみでした。その後はランチをしテキサスレンジャーズの球場などへ行きました。皇室しか入れない観覧席にも行き、とても貴重な経験ができました。二日目は市役所に表敬訪問に行きパーババ市長、豊田市長、そして私達のリーダーの今泉さんのスピーチがありました。現地の警察の方もいて、車やバイクがとても格好良かったです。その後の大学訪問では、学校とは思えない程美しい景観に驚きました。訪問団以外の方々も混じえての記念式典パーティーでは、円卓に座り隣の男性と話をしましたが、彼の英語を理解できない時や聞きとれない時も多くありとても不甲斐なく思いました。そんな中親切に話しかけてくれた方も沢山いて、とても嬉しかったですと同時にもっと交流できるように英語を頑張ろうと強く思いました。翌日はグレイスコミュニティスクールに行き現地の高校生と一緒に授業を受けたりしました。日本より自由で明るいという印象を受けました。授業で一人一人が自分の意見を持っていて積極的に発言をする所は日本とは異なっていてまた見習うべき点だと思いました。夜はホストファミリーとアメフトを見に行きました。ホームステイはとても短い間でしたが、とても温かく穏やかな時を過ごしました。他にもバーベキューパーティーやローズパレード、さよならパーティーなど様々なことをしました。コンビニやアウトレットに行ったことも嬉しかったです。ここには書ききれない程新鮮で濃密な五日間でした。

私が今回の訪問で感じたことは、日本よりも礼儀正しく意思表示がしっかりとしていると思いました。日本を離れることで改めて考えなおすことができたと思います。このような貴重な経験ができて本当によかったです。

■小林蓉志子

八千代台西

2012年10月17日から22日までの「姉妹都市交流20周年記念タイラー市親善訪問団」の一員として参加させていただきました。深く感謝しております。私自身、約20年振りに長時間の飛行を要する外国訪問旅行に申し込むのは、大変勇気が要りました。機内では往きはかなり酔いましたが、帰路は上手く薬を飲んで対応でき一安心でした。

さてアメリカへは初めての訪問であり、期待感と不安感が交錯していましたが、やはり「百聞は一見に如かず」でした。国土の広さ、車の多さ、家の大きさと、正にBig Americaでした。初日にタイラー市庁舎を訪問した時、女性市長のバーバラ・バスさんが私たちの訪問日「10月18日を姉妹都市の日にする」と宣言してくださったことは、本当に素晴らしいことで感動しました。

特筆すべきは、普通の観光旅行では決して体験できないであろう色々な方々との出会い、そして個人の邸宅への訪問でした。アメリカの上流社会の一端を肌で感じ、まるで映画の中の世界に入ったようでした。これも20年間姉妹都市交流を続けてこられた周郷会長はじめ関係役員の皆様の熱いご尽力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。更に今回10人の高校生と一緒に訪問団として参加しましたが、これは大変価値のある将来に希望が膨らむ取り組みです。若者の未来に大いに期待します。

来年3月にテキサスからTyler Junior Collegeのチアリーダー(Apaches)の学生たちと楽団と関係者の総勢約98名の方々が八千代にお出でくださると伺い、何とビッグなプレゼントかと心より歓迎申し上げます。この国際交流がますます盛んに末永く続きますように、そして、そのことが地球に住む人々の親善にもつながっていきますことを心より願っております。

■小林公孝

八千代台西

八千代市国際交流協会の一員として、タイラー市訪問は2006年3月、2008年10月、そして今回2012年10月17日～22日の3回になります。特に今回は、タイラー市との姉妹都市交流20周年記念訪問となりました。訪問団は豊田市長、周郷会長、国際交流協会会員、一般市民、そして選抜された高校生10名を含む合計44名の構成となりました。

タイラー市は緑の多い自然に恵まれた土地であり、教育文化機関、医療機関が整備され、そして商工業都市として活気ある街です。初日の10月18日は市庁舎において、バーバラ・バス市長はじめ多くの人たちの歓迎の出迎えを受けました。大変感激いたしました。市長の歓迎あいさつの中で「10月18日をタイラー市・八千代市の姉妹都市の日とする」と宣言されました。同時に在ヒューストン山本条太総領事より両市長に宛てた「交流20周年記念お祝い」のメッセージが読み上げられました。皆さんの交流に対する暖かさに関心を強く感じました。10月18日の夜には「姉妹都市交流20周年記念ウェルカムパーティ」に参加、19日夜には「ローズフェスティバル戴冠式」に参加、20日昼には豊田市長、周郷会長夫妻、高校生10名は「ローズフェスティバルパレード」に参加、21日昼は各家庭に「ホームビジット」、夜は「さよならパーティ」に参加、等々。その他、滞在中

はタイラー市の好意により州立テキサス大学、タイラー・ジュニア・カレッジ、医療センター、立派な個人宅等いろいろな所を訪問・視察し、各訪問先で心温まる歓迎と接待を受けました。高校生10名とは一泊のホームステイを除き大部分の行動を共にしました。「市庁舎」「20周年記念パーティ」、そして「さよならパーティ」での高校生代表のスピーチは立派でした。参加したタイラーの人たちにも充分理解できたと思います。また、タイラーの人たちとの交流も堂々としており、国際的感覚を養う上で生きた英語を学ぶ上でも良いきっかけとなったと思います。

これから八千代市としても今回限りではなく、高校生派遣を推進すべきだと思います。タイラー市の姉妹都市委員会のパット・ジョーンズさんはじめ、多くの関係者が我々八千代親善訪問団のために朝から晩まで付き添い、暖かいもてなしをしてくださいました。タイラーの皆様には深く感謝しております。ありがとうございました。八千代市とタイラー市の姉妹都市としての交流は、1992年から20年の歴史があります。先輩たちの築いた市民同士の交流を引き継ぎ、これから30年～40年と交流を続けていかなければならないと思っています。

アメリカ第34代アイゼンハワー大統領が「ピープル・トゥ・ピープル・プログラム」を発表し、国際姉妹都市提携を提唱してから世界的に姉妹都市の提携が盛んになったと言われていますが、この精神を基に市民同士が往来し直接に交流することでお互いの理解を高めることができるという姉妹都市交流の意義を改めて感じました。一人一人が対面し直接話し合うことが一番だと思っています。小さな市民外交が国際平和につながることを祈っています。今回の訪問は大成功だったと思っています。今後も国際交流の活性化に向けて微力ですが、一市民として努力したいと思っています。



■多田久尚

高津団地

今回、若い八千代市民の代表として10名の高校生が親善訪問団に特別に参加しました。私は囃らずも、その高校生たちの引率という大役を引き受けることになりました。10名の高校生たちは全員が国際交流を積極的に体験したいという希望に満ちていました。出発前に数回の研修を受け、英会話の練習のほかマナーや安全対策などについて訪問経験がある大人の方から細かいアドバイスを受けました。そして訪問中、三つの場面でグループを代表してあいさつのスピーチをすることになり、今泉、若菜、入江、魁刀、横川、舞夏の3名に決まりました。三人のスピーチの原稿は、いずれも十分に心のこもった内容で書かれていて、私が若

干表現を直す程度の出来栄でした。

タイラー市に到着した翌日、私たちはタイラー市庁舎を表敬訪問しました。両市の市長と訪問団長のあいさつの後、いよいよ我々が高校生代表の第一回目のスピーチの瞬間がやってきました。今泉若菜さんは80名近い出席者の前で落ち着いた調子とはっきりとした発声でスピーチをしました。終わった瞬間、私は「よくやった！」と心の中で叫びました。今泉さんはトッパッターの重責を果たしました。これで最初の大きな扉が開かれたと思いました。そして、夜は20周年記念式典と大パーティが催されました。入江魁人くんがお礼のスピーチを堂々と述べ、二番目の大役を立派に果たしました。三日目に生徒たちは地元の私立高校グレース・コミュニティ・ハイスクールを訪問しました。生徒たちは、いくつかのクラスに分かれて授業を受けました。米ノ井さんと私は八千代の生徒がいることを確認してから中に入り、学習の様子を観察しました。みんな思っていたほど緊張していませんでした。数学、国語、歴史と廻りましたが、数学は既に学んだ内容だとか、国語は少し難しそうでした。ランチの後、生徒たちは待望のホームステイを経験するためホストファミリーと合流しました。四日目はローズフェスティバルパレードがあり、生徒たちは浴衣を着、下駄を履いて参加し、沿道の大勢の地元市民の拍手と声援を受ける中、約3マイルを行進しました。五日目はホストファミリーと女子はショッピングを楽しみ、男子はミニゴルフを楽しみました。そして、夜は盛大に行われたさよならパーティで横川舞夏さんが感謝をこめたお礼のスピーチをし、今回の訪問を締めくくりました。

短い期間でしたが、生徒たちはみんな緊張の中にも伸びやかに行動していました。きっと多くの収穫を得たと信じています。私自身も成長する生徒たちを間近に見ることができ、とても嬉しかったです。

■多田久子

高津団地

平成4年に八千代市とタイラー市との姉妹都市提携の調印式が催され、第1回派遣団の一員として、タイラー市を訪問しました。調印式ということで、市長初め議員の方々も全員だったように思います。派遣団員も一般募集ではなく、当時の姉妹都市交流協会の団体メンバーの代表者から募りました。企画・運営も市の企画部主導でした。飛行機代の半額を市が負担してくれましたが、その時の自己負担額は今回の参加費とほぼ同額でした。円高の影響ですね。このときの出来事で忘れられないのは、朝食は「ご飯」という八千代市からの要求があったのですが、ホテルで炊き方がわからず、ボーイスカウトの団長さんと4時起きして寸胴鍋でご飯を炊いたことです。平成6年にタイラー市の訪問団をお迎えしました。それからずっと受入の実行委員会メンバーになっていますので、いろいろなことが思い出されます。勝田台グランドホテルも日興の研修センターも健在でした。グランドホテルでは水芸、獅子舞で歓迎、大学構内での夏祭り模擬店、日光参拝等いろいろありましたが、催し物の中での一番人気は日本舞踊衣装の着付け、撮影だったと思います。

今回姉妹都市提携20周年という節目を迎え、2度目の参加をさせていただきました。第1回目の団員だったということで、思いがけなくプレゼントをいただき感激しました。

受入の準備をするよりタイラーで皆さんとお会いして、お話の方がずっと楽しいですねと思いつつも、今度受入のときはこんな風にした方がいいとか、パーティ参加の人たちにはこんなお願いをしたいとか、つい考えてしまいます。何よりもよかったのは高校生の参加でした。両市の日程が合うときを選んで、せめて1週間はホームステイが出来ればもっと有意義な研修になると思います。若い世代の交流を定着させることがこれからの国際交流協会の目的の一つであり任務でもあると思います。



■小島圭二

勝田台

小生にとって今回の親善訪問は、14年ぶり2回目の訪問となりました。先ず今回の訪問に対して小生が抱いていた最大の関心事は、「前回の訪問とプラス面での様な変化・違いを感じることが出来るか？」という点にありました。現在の国際姉妹都市交流を長続きさせるためには、八千代市とタイラー市双方の人たちが交流することに「意義・魅力」を感じられることが重要であると考えているからです。

今回の親善訪問は、

- 1 姉妹都市交流20周年と言う記念すべき年であったこと。
- 2 そして今回の訪問は豊田市長、周郷会長(団長)を含む総勢44名で、訪問団員の数においてはこれまでの中で最大の規模であったこと。
- 3 また、八千代市議会から議長、副議長を含む4名の議員が今回の訪問に参加されたこと。
- 4 更に八千代市在住の高校生10名の派遣が初めて実現されたこと。

この訪問に対し、タイラー市サイドにおいては、

- 1 バーバラ・バス市長、パトリシア・ジョーンズ姉妹都市会長をはじめ多数のタイラー市民が盛大に我々を歓迎してくれたこと。
- 2 今回は大人の訪問団と高校生の訪問団の両方を受入れるために様々な催しをそれぞれに企画され、パトリシア・ジョーンズ会長をはじめ他の理事の皆様が最初から最後まで交代で我々についてお世話をしてくれたこと。
- 3 また我々の訪問先においても、非常に温かく親切に対応もてなしをしてくれたこと。
- 4 特に高校生の訪問に関しては、タイラーの皆様も「若い世代の交流の重要性・必要性を十分理解・認識され対応してくれました。その証として我々がタイラー・ジュニア・カレッジを訪問した時、学長があいさつをされ「高校生の今回の訪問を機に奨学金の特別枠を更に2枠設け

る」とその場で約束されたこと。

そして豊田市長が表敬訪問時のあいさつの中で、「八千代市とタイラー市の友好関係を将来にわたり継続していくことで、文化・教育・経済などの交流がますます進展することを切に願います」と表明されたことは、国際姉妹都市交流の今後の指針として非常に意義深いものであると思います。

以上の点に鑑み、今回の訪問は姉妹都市交流20周年を祝う記念すべき年ではありますが、今年が正に“若い世代を含めた新たな姉妹都市交流の出発点・始まりである”という強い印象を受けました。その意味で今回の訪問は、八千代とタイラー双方の市民にとって非常に有意義であり且つ大きな成果があったと思料いたします。

また今回の訪問を通して、小生がその他の面で強く感じた点として、

- 1 タイラー姉妹都市の国際交流活動は市（行政）との連携がよくとれており、行政と一体となって取り組みが行われていること。
- 2 またローカルのKLTV Channel 7でタイラー市の市議会の様子が放映されているのを見て、市民への情報公開が迅速且つ非常にオープンに行われ、市議会の運営等も少人数で非常に円滑且つ機能的に行われていることを感じました。「タイラー市の議会・行政面においては正に民主主義の原則に基づいて、市民のために“大人の政治・行政”が効率的に無駄なく行われている」という印象を強めました。

八千代市とタイラー市には組織・制度面で大きな違いは存在しますが、少なくともこれらの“理念”においてはタイラー市から大いに学ぶべき点はあるのではないのでしょうか！？

■ 廣田伸子

上高野

早いもので姉妹都市タイラー市を訪れてから1ヶ月余りが過ぎました。楽しかった数々の思い出ができ、貴重な体験でした。

タイラー市の方々の印象は、皆様とっても優しく、純朴で親切だと思いました。生活の楽しみ方も、周りの人々との交わりを中心に、パーティやセレモニー・イベント等をかなり活発に開かれている印象です。ローズフェスティバルの戴冠式も、舞台に出場するすばらしい衣装の出演者はもちろんのこと、見に行くお客様もフォーマルウエアでとのことで、ロビーに集まった方々も素敵なドレス・スーツ姿であざやかなイベントでした。

また自宅のパーティに招いてくださった家も広く素晴らしいお屋敷で、ご主人・奥様に親切にもてなしていただきました。ホームビジットは多田さんご夫妻とご一緒に、スペイン語の先生ジャネットさんのお宅に伺いました。ランチをいただきましたが、フレッシュな野菜がメインのヘルシーな献立で美味でした。いろいろなお話をするとともに、多田さんの奥さんが持参した花札のゲームをしたり、近くのショッピングセンターに行ったりして楽しい時間を過ごしました。

タイラー市役所、テキサス大学、タイラー・ジュニア・カレッジ、美術館、プラネタリウム、ローズフェスティバルパレード見学などタイラー市内各所を案内していただき

ました。初めてのタイラー訪問でしたが、とても親しみを感じています。旅行のお世話をいただいた方々、タイラー市で親切にいただいた方々に感謝しています。



■ 廣田敬治

上高野

姉妹都市交流20周年を記念してタイラー市の親善訪問が計画され、私も八千代市国際交流協会のメンバーの一員として計画立案と訪問団に加わった。今回お互いの交流（訪問・受け入れ）の22回目と聞いた。私自身は協会の加入歴も浅いため初めての訪問であるが、数回訪問されている方も多し。今回は公募した市民及び高校生を合わせ44名もの大訪問団で10月17日に出発した。今回訪問した時の状況、エピソードや感じたことなどを日程順に記してみる。

タイラー市の最寄の空港ダラスまで成田からの飛行時間は約10時間30分で、夏時間での時差はマイナス14時間である。したがって成田発午前11時30分で着時間が午前8時55分と逆転現象になる。アメリカの空港は9・11の事件以来入国審査が厳しく、指紋をチェックされたり、写真を撮られたりとの時間があり、全員が税関を出るまで1時間以上必要であった。空港からタイラーまで2時間以上かかるが、姉妹都市の理事のトニーさん（広島出身）が迎えに来てくれていて安堵した。

まず空港の隣の市フォートワースのストックヤーズに移動した。ここは西部開拓時代の街並みが残されている国立歴史地区である。まさに東京ディズニーランドのウエスタンランドのような景観であった。ここでメキシコ料理の昼食を取り、メジャーリーグ・ベースボールのテキサス・レンジャーズの球場（レンジャーズ・ボールパーク）があるアーリントンへ向かった。今年のレンジャーズはダルビッシュ有投手の活躍が光ったが残念ながらプレーオフには進まず、球場は閑散としていた。突然の球場訪問であったが、球場の方々が親切に対応してくれて、一般の人は絶対に入れないバックネット裏のオーナー室と記者席に案内してくれた。TVの画面で見えていた球場を実際に見ることができ感激した。（11月4日放送のNHK・TV「ダルビッシュ有・大リーグと闘った男」のインタビューはこの記者席のようであった）私をはじめ多くの人々がダルビッシュのTシャツやレンジャーズのグッズなどを買い求めた。

タイラー市での夕食会場では、10名以上の姉妹都市関係の方が出迎えてくれて一緒に食事をした。再会を喜ぶ人も多く大変な歓迎であった。翌日はメインイベントの一つである市役所の表敬訪問からスタートした。市役所のエントランスでは市長をはじめ市議・市職員の方、隣接する警察、消防の幹部の方が並んで迎えてくれ、一人一人とあいさつ

握手をしながら入場した。タイラー市のバーバラ・パス市長は10月18日を「八千代友好の日・姉妹都市の日」とすることをあいさつの中で述べられた。最後は同行した高校生がクリアな英語でのスピーチを行った。その後記念撮影をしたり、警察や消防の特殊自動車などを見せてもらったりして歓談した。終わった後はテキサス大学タイラー校や大学健康センターを見学した。夜は80人以上が出席した姉妹都市20周年記念式典と大パーティであった。この夜をはじめ4日間はパーティの連続であった。次の日はタイラー・ジュニア・カレッジと付属の美術館、プラネタリウムを訪問した。ジュニア・カレッジは各国からの留学生も多く、学生総数は1万人を超えるらしい。夜は正装をして大富豪のマッカーラーさんの大豪邸でのパーティであった。個人の豪邸でワイングラスを片手に語り合う姿は自分自身も映画の中にいるようであった。家の中を見せてもらったが、子供室でも10坪以上の広さ、TVを見る部屋は15坪以上あると思った。庭も大変広い面積であった。その後はテキサス・ローズフェスティバルのクイーンズの戴冠式を市民会館で見学した。4日目はローズフェスティバルのパレードであった。パレードは約3kmであるが、私たちはゴール地点のアメリカンフットボール場で見学した。最初のパレードが入場する前には全員起立して国歌吹奏があり、いかにもアメリカらしい現場に遭遇した。八千代の豊田市長、交流協会の周郷会長と着物（浴衣）を着た同行の高校生もパレードに参加した。終了後隣接のローズガーデンに行ったが、ローズクイーンや多くのローズレディスがいて、見物のためアメリカ各地から集まった客で混雑していた。タイラー市は観光地ではないため日本人の観光客が行くことはまずなく、私たちがガーデンを歩いていたら一般の市民の方が珍しそうにどこから来たのか尋ねられた。日本からと答えると少しびっくりした様子であった。夜はタイラー湖に面した大豪邸でのパーベキューパーティであった。玄関で皆にカウボーイハットが配られ、それを被ってパーティに臨んだ。余興では西部劇のケンカやピストルを使った実演を見学した。広い庭ではギターの伴奏に合わせてダンスをしたり、散策をしたりして皆楽しんでた。ビール（小瓶）は直接ビンから飲む（いわゆるラップ飲み）のが当たり前で、これもまさに映画のシーンの中にあるようであった。最終日は数名に分かれて市民の方の家を訪問する日であった。私たち夫婦と多田さん夫婦でスペイン語の教師だったジャネットさん（女性）の自宅を訪問した。敷地も広く（多分200坪程）家は平屋建てで60坪程ありゆったりした家であった。靴のまま直接家の中に入ることに少し違和感があり戸惑った。ホテルの朝食などでは食べられなかった野菜や魚などヘルシーなランチをいただいた。多田さんが英語堪能な人だったので助けもあり、会話がはずみ楽しい経験であった。ジャネットさんとは帰国後お礼を兼ねEメールのやりとりをした。タイラー市最後の夜は、さよならパーティであった。プレゼントの交換なども盛んであった。私たち全員でお礼の意味で、日本の歌（「上をむいて歩こう」など）と踊り（炭鉱節）を披露した。高校生は浴衣を着用し日本のムードを盛り上げた。タイラー市出発の日にはスケジュールの関係で早朝5時にホテルを出発であったが、空港まで出迎えて来てくれたトニーさんとパーティを主催してくれたマッカーラーさんがホテルまで見送りに来てくれた。これにはとても驚くとともに大変な感激であった。帰

国後トニーさんにもお礼のEメールを送り、返事をいただいた。高校生と数名の人以外は、オプションツアーのロサンゼルスを経由して10月25日に帰国した。

ハードスケジュールであったが、心からの歓迎を受け、大変感動し、そして楽しく貴重な経験をさせていただいた。来年3月にはタイラー・ジュニア・カレッジの学生の来日が予定されている。そして、恐らく再来年にはタイラー市の人たちを迎えることになると思われる。私たちへの歓迎を皆で協力してお返しできればと考えている。



■ 小川剛毅

八千代台北

私も、2012年10月17日から25日まで9日間にわたる「タイラー市との姉妹都市交流20周年記念親善訪問団」44名の一人として参加しました。

私は現役時代にテキサスのダラスやヒューストン等は仕事で出張したことはありますが、タイラー市へは今回が初訪問でした。今回の訪問団派遣に当たり、YIAメンバーの役割分担の中で、小島さんと私の二人が、市長や会長のタイラー市における公式行事の通訳として任命されました。その後の調整過程で市長の通訳は主として小島さん、会長の通訳は主として私が務めることになりました。周郷会長は元来大人（たいじん）の風格のある、やんごとなきお方ですから、小事には拘泥せず、タイラーでの市長表敬訪問時から歓迎会、送別会を通じて、「小川さん、事前原稿はありませんが通訳は宜しく。まあ万事阿吽の呼吸でいきましょう」との、私の小さな心臓にとっては、健康上余り宜しくないような“ご託宣”。私も市庁舎や歓迎会や送別会でタイラーのお歴々を前に、事前原稿なしのぶっつけ本番で通訳するのは、最初は少なからず緊張を覚えました。しかし、そこはそれ、生来の樂觀主義者。「まあ出たとこ勝負だ。リラックスして行こう」とハラを括って取り組みました。終わりごろには自分でも結構エンジョイしながら、何とか大過なく乗り切ることが出来て、ほっとしました。送別会では「さくら さくら」「故郷」「上を向いて歩こう」の3曲の大意を私が手短かに英語で説明し、一同で合唱披露しました。その後、バカ面を被って、一同で「炭坑節」を踊りながらテーブル席を練り歩きました。この日本の歌3曲と踊りの切り替えの短い時間帯を利用して、私が会長の薦めもあり、座興として「オー・ソレ・ミオ」を歌いました。幸いタイラーの人たちも、敬老精神の発露か、大喝采で喜んでくれました。パーティーの締めくくりに、両姉妹都市の会長が友好関係の永続を希求するあいさつを行い、私が周郷会長の通訳を行いました。周郷会長は「タイラーは最早第二の故郷です。今夜は、“さようなら”ではなく、

「ちょっと日本に行ってきます」といった気持ちです」と心情を吐露されました。送別会終了後、同席のバット・ジョーンズ会長ご夫妻が、私に「Good English . Very Strong Voice」と言って労をねぎらってくれました。その心遣いには感動しました。このタイラー滞在最終日は、私にとっては何かと多忙な一日でしたが、また同時に大変充実感が満ちた一日でもありました。



■林 隆文

八千代台北

今回、私は初めてタイラー市との国際交流事業に参加しました。姉妹都市提携20周年の節目の年に参加でき、大変貴重な体験ができたことに感謝申し上げます。さすがに13時間の移動には少々疲れましたが、アメリカ大陸初上陸の興奮で疲れも忘れてしまいました。そして何よりも感銘を受けたのは、タイラー市役所に訪問した時のことです。市長をはじめ警察署長や市職員が総出で我々の到着を歓迎してくださいました。また、タイラー市の議員の方々も初対面の私たちに対して、フレンドリーに接していただきました。会話は単語をつなぎあわせて何とか通じる程度でしたので、次回訪問する際には、もっと英会話をマスターしなければならぬと痛感しました。

タイラー市はとても落ち着いた雰囲気のある街で、住むには非常に環境が良いところだと思いました。そしてアメリカ大陸は広い。自然と心もおおらかになってしまうのでしょう。歓迎パーティに参加し、地元の方々との交流を通じて、タイラーの人々の温かさを感じました。また、ローズフェスティバルにもお招きいただき、街を挙げての盛大なイベントに参加でき、良い旅の思い出として心に残っています。八千代市においても市の花がバラであるので、今後観光を含めたイベントの開催ができれば良いと考えております。

そして今回は初めて高校生が訪問したこともあり、今後若い世代間の交流事業として発展していけるよう、私も微力ながらお手伝いできればと思っております。結びに、周郷会長をはじめ、今回の訪問の運営、サポートをしていただきました国際交流協会の皆様、事務局の方々に感謝申し上げます。

■石塚 巖

八千代台南

姉妹都市20周年記念としての交流事業に突然参加させていただきました。心の準備もタイラー市の知識すら無いままに一員となったことに戸惑い、単なる観光旅行とは異なり、両市の親善の架け橋となるべく責務の重大さを痛感し

ながらの参加でした

しかしながら英語の話しえない私にとっては、ただただ通訳の方の日本語に頼るしかありませんでした。今にして思えば日光の3匹の猿の彫刻と同じく、タイラー市の皆様とお会いしている時には、目を合わせると会話をせねばならないので見ぬ振りをし、英語で一言でも話せば、機関銃のように英語が襲いかかるとで話せない。相手の方が話しかけてくださっても解釈することが出来ず、耳を塞いでいるのと同じでした。帰国後、冷静に自問した結果、親善には全く貢献していなかったことになり、この事業を企画運営された皆様に深くお詫び申し上げたいと思います。しかし、このような無能な私にも我々の訪問に対し、市長はじめ各界の名士の方々やレセプション等に参加くださった方々の素晴らしい笑顔、優しさで親切が心に響いて、いまだに脳裏に鮮明に映し出されております。かつては太平洋戦争やエコノミックアニマルなどという暗い歴史を持つ両国でしたが、バラを愛するタイラー市の皆様、テキサス州立大学、私立病院、タイラージュニアカレッジ、消防署等、そして突然立ち寄ったテキサスレンジャーズ球場等の全てのスタッフの皆様が、日本人を、八千代市民を心から歓迎してくださいましたことを肌身に感じております。

最後に、タイラー市を立つとき、早朝、暗闇の中で見送ってくださった方々の姿に感謝の言葉より申し訳なさを感じ、目頭が熱くなる思いでした。私の永い人生の中で、こんな風に人に接することが出来ただろうか…と。

■野神弥一郎

上高野

今回のタイラー訪問は、初めての高齢の義母、誠一朗及び私たち夫婦2人の一家4人で、10月18日に再度、タイラーの街並を見た時に何とも懐かしい思いにとらわれた。更に市役所で、バス市長をはじめとするタイラーの皆様が階段に並んで暖かく握手で迎えてくれた時に、3年前の初めての訪問を思い出した。また、前回のタイラー・ジュニア・カレッジ(TJC)を訪問した時には、のびのびと学生生活をエンジョイしている雰囲気や、学生が授業に落ちこぼれないための優秀な?学生による援助システム等(TJCが金額サポート)、私も、もし時が許せば学生生活を過ごしたいと思ったし、同感の人が他にも居たようでした。今回はトニーさんが教授として、インキュベーターの新規事業で、TJCが実施している病院のカルテ管理等の実施例を紹介した。また、TJC新設のプラネタリウムでは人間の肉体、行動原理を主体とした宇宙旅行の解説に、日本人と全く異なった米国人の考え方に少なからず驚いた。(日本では宇宙の星座の映像が主体)

話は変わるが、特に今回のレセプションの全進行にバット会長が年を感じさせないパワーで、テキパキと細やかに配慮して進めると共に、社交ダンスを楽しむ姿に感心した。また、前回来日した時に、ホームステイに招待したマッカーさん一家とは、懐かしく再会した。特に成長して好青年になって、にっこりしているアレックスや、自由で茶目っ気のあるハイドンに会うと、何か親戚の子供に会ったような感じがした。

今回は、フラットさん夫婦、娘のマーサさんの一家にホームビジットとして招待された。クリスマスグッズを集めた楽しいクリスマスハウスの案内や、レストランでのフラ

ットさんの主人のピアノとの軽い合唱に、人生のゆとりを感じられた。また、フラットさん一家のオリエンタル調で、クラシックな家具や装飾品の中で、ゆったりと人生を楽しんでいる会話は、伸びやかな充実感のあるひとときでした。

今回で思ったことは、タイラーの人たちが自然で広い土地でゆったりと生活を楽しみ私たちを歓迎してくれることが、どこか第二の故郷のような感じで、何度でもタイラーを訪問したくなる要因なのかも知れない。また、今回は高校生10人が訪問に参加したが、高校生ともなると、英語も結構話し、交流も行えて好感を持たれたのではないかと思う。更にローズフェスティバルでは天候にも恵まれ、オリエンタル調?もあり、独自の楽しさにあふれると共に、市長、会長及び和服姿で日の丸を振る高校生たちの華やかなパレードも興をそえた。また、いつもながらの各種の衣装を着飾った長時間にわたるパレードは、いつ見ても楽しいものである。

オプションでは、サンタモニカやサンディエゴ散策も楽しかったが、ミッドウエイの見学には、その規模に少なからず驚きと興味を持った。(小林さんの気持ちが少しは理解できた)オプションの楽しみは別としても、タイラーには、また訪れたいものである。



■野神誠一郎

上高野

今回、八千代市の姉妹都市であるタイラーを訪問し、市民の代表の一人として国際交流を行えたことは自分自身にとっても貴重な経験だった。今まで、この様なことに直接的に関わって来てなかったが、姉妹都市交流20周年という節目の時に参加できたことは幸いだった。

訪問して始めに感じたことは、タイラーの人々がこちらが驚くほどに歓迎してくれていたことであった。単純に姉妹都市として決められた内容以上に八千代市から訪れた我々を受け入れてくれていることを肌で感じる事が出来た。ひとえに20年という年月、姉妹都市として交流を続けてきたお互いの信頼関係が大きく影響していると感じる。

始めの市庁舎への表敬訪問の式典では、市長から議員、職員まですべての人々が道に整列し握手をして歓迎し、今回の交流を喜んでいることが良くわかる場面だった。ウェルカムパーティでは今までの交流を振り返り、各個人の再会を喜ぶ場面が見られて交流の長さを感じた。その後も様々な場所を訪れた。個人としても、ホームビジットではアメリカの家庭料理をご馳走になり、アメリカでの生活を感じる事が出来たことが自分の中で大変思い出深いものとなった。個人レベルでの交流が出来るのも、長く続く全

体の交流があってこそだと思う。タイラー市全体で行く先々で八千代市民が歓迎されて素晴らしく、暖かい交流となったことが私個人としても嬉しく感じた。

このような素晴らしい関係をこれからも続けていくことが文化の交流としてお互いに重要になると思う。今までのお互いの努力を新しく引き継ぎ次の交流につなげて行かなくてはならないということを私自身も感じずにはいられない。今後とも様々な交流がタイラーとの間にあると思うが、積極的に関わっていこうと思う。

■齋藤輝夫

八千代台北

10月17日、八千代市の姉妹都市である米国テキサス州タイラー市に向けて機上の人となった。およそ12時間の空の旅である。

初めてのダラス空港で英語もままならない中、入国手続きがどうなるか不安もあったが、無事通過。ダラス空港を出発し、西部時代の観光施設とダルビッシュが所属するテキサス・レンジャーズの野球場を見学し、タイラー市へ向かう。翌日から訪問の目的である姉妹都市交流の行事に参加する。市庁舎訪問、歓迎式典、美術館訪問、テキサス大学タイラー校、タイラー・ジュニア・カレッジ校等々を訪問。ローズフェスティバルの戴冠式に参加、ローズフェスティバル・パレードを見学後、ローズガーデンでバラの花の鑑賞、ローズクイーンとの写真撮影、館内に飾られている過去のローズクイーンの豪華な衣装を見学し、今までのフェスティバルの歴史を知ることができた。

姉妹都市交流のもう一つであるタイラー市民との交流も少ない時間ではあったが、その機会にも恵まれ有意義な時間を過ごすことができた。ホームビジットでは静かに暮らす老夫婦宅へ。そして少年や学生たちの歓迎には、心地よいつながりを感じることができた。できれば、タイラー市のダウンタウンの散策や、タイラー市民の生活や考えが理解できるような機会が多くあれば、更に良かったのではと思う。

今回の姉妹都市交流には、八千代市の高校生10名が参加し、有意義な交流が行われた。これからも次の世代を担う高校生、大学生、そして若い社会人たちも機会を作り、このような市民交流の輪が広がり、深まっていくことを期待します。姉妹都市20周年の佳節の訪問団として参加させて頂きありがとうございました。

■齋藤貴美子

八千代台北

姉妹都市締結以来、タイラー市の皆様を語学ボランティアとして八千代市にお迎えして20周年の佳節を迎え、月日の速さに驚くばかりです。

毎回、「タイラーにいらしてね」と別れ際にあいさつを交わした皆様に今回、初めての訪問で再会でき、お互いに喜びもひとしおでした。ダラス・フォートワース空港では「はっぴ姿」で私たちを出迎えてくださり、5日間の行程中、タイラーの皆様が護られてすべての行事に参加させていただき、感謝の気持ちで一杯です。

今回は隣町を訪問するようにタイラー市訪問ができ、20年間の両市の交流の賜物と実感いたしました。議会を颯爽とリードするバーバラ・バス市長、私たちを励まし、スム

ーズな行程運営に心をくだいてくださるバットさん、トニーさん、あけみさんからは細やかな真心の受入姿勢を学ばせて頂きました。

訪問団初参加の10人の優秀な高校生の皆様は、ローズフェスティバルでのパレードに浴衣姿で登場し、堂々と八千代市をアピールし、地元高校生との交流も見事に果たし、今後の国際交流の新たな1ページを開いてくれました。

澄み渡る青空にどこまでも高く伸びる木々、歴史を刻むタイラー市庁舎とイチョウの木、姉妹都市締結20周年の議会でのセレモニー、前庭での20年間交流に尽力して下さった故カズエ・ジョンソンさんへの記念植樹、ローズフェスティバルとパレード、エイミーさん宅でのご家族ぐるみの歓待、穏やかなカーターご夫妻宅訪問等、友情あふれる市民交流の素晴らしい実感を感した旅でした。

今回の訪問を大成功に導いてくださった団長、副団長をはじめ、高校生引率の多田さん、通訳の小島さん、小川さん、元気いっぱい盛り上げてくださった記録の小林さん、事務局の野神さんご家族に心より感謝申し上げます。

来年3月のTJCの「アパッチベルズ」の皆様の来市を心待ちに、更なる姉妹都市の友情を広げてまいります。



■ 泉妻敦子

勝田台北

10周年にテキサスを訪れ、20周年という節目の年に再訪の機会を得た。前回は同じ期間にヨーロッパ出張であった夫も共に参加することになった。

今年話題となったレンジャーズの球場を見学し、さすが大リーグの球場だと思った。ダラスからタイラー市に入り、夕食をしたレストランにキャサリンが迎えに来てくださり、2年ぶりの再会を喜びあった。市役所表敬訪問では、大歓迎でバーバラ市長も覚えていてくださり嬉しかった。なつかしい皆さんに出会えて感激。ウェルカムパーティでは、タイラー・ジュニア・カレッジの学長夫妻とバーベキューパーティで訪問させていただき、ご夫妻と同席し、なごやかな歓談の時を持つことができた。3日目、2年前に私宅にホームビジットに来たアンディの病院を見学するため、8時半にキャシーが迎えに来た。脊椎専門病院でスタッフ3名が案内して下さったが、大変良い病院だと思った。2年前2人の小学生と共に八千代を訪問されたM氏邸での夕食会。素晴らしい豪邸で2人の少年は立派に成長し、「こんにちは」とあいさつ。楽しい夕食会であった。ローズパレードは華やかで、さすが「バラの街」タイラーだと感じた。タイラー湖畔にあるX邸でのバーベキューパーティでは、カウボーイハットを皆でかぶってダンスに興じ、カウボーイスタイルの役者による寸劇もあり、テキサスならで

はの演出にびっくりした。ホームビジットは2年前に八千代に来られたバムさん宅を訪れた。150坪くらいの敷地の家が並んでいる街並みで、10名のファミリー総出で大歓迎して下さり感激した。素敵なお品に囲まれ、ご主人のギターの調べと共に、アットホームな雰囲気が忘れられない思い出となった。さよならパーティで10年前同席したワンダと偶然お隣となり、10年前の写真を持参した私が写真を見せると、「お互いに10年前は若かったわね」と慰め合った。この10年間を考えると感慨深いものがある。

今回は高校生10名というヤング世代の参加により、姉妹都市部会の活動も一歩前進できたと思っている。今回出会った素晴らしいタイラーの皆様、そして訪問団で一緒した八千代の素晴らしい皆様に感謝し、異文化交流の輪を広げていきたいと願っている。

■ 嶋野勝美

八千代台西

このたびタイラー市への親善訪問に初めて参加し、貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。八千代市並びに八千代市国際交流協会の皆様に厚くお礼申し上げます。タイラー市との姉妹都市交流のことは前から存じておりましたが、「広報やちよ」で20周年記念訪問団員募集を知り、海外勤務経験もなく「国際」とは無縁の生活でしたが、思い切って応募した次第です。

タイラー市へ向かうバスから見える緑の地平線にまず驚きました。市役所への表敬訪問では市長、職員の方々から暖かい歓迎を受け、またパーティでの心こもったお持たせに深く感激しましたが、これも今までの長い交流があればこそ、関係者のご努力に感銘いたしました。タイラーの皆さんが来られた時は、きちんとお返しをせねばと思いました。

テキサス大学、タイラー・ジュニア・カレッジ等を訪問しましたが、緑豊かで教育設備も整った恵まれた環境です。ローズフェスティバルも心に残る思い出となりました。八千代をバラの香りのあふれる町にできれば素晴らしいと思いました。

短い期間にも大小様々な彼我の違いを実現できました。甘すぎるデザートやタイラー市での酒類小売禁止（飲酒は可）に始まり、起業家精神や地方自治のあり方に至るまで、みな歴史的文化的な背景があつての相違なのでしょうから、そこまできちんと調べ、真の相互理解につなげたいと思います。その上で良い所や出来ることは積極的に取り入れ、八千代の発展・飛躍につなげられたらと思います。

何十年振りかの英語に身振り手振りを加えての会話となりましたが、バック旅行では味わえない非常に刺激的で有意義な旅行となりました。今回は高校生も多数参加しましたが、今後各層にわたり広く参加され、草の根の交流が続けられることを期待したいと思います。

■ 岩井 寛

高津

今回の友好親善訪問は、タイラー姉妹都市委員会から第79回ローズ・フェスティバルに合わせてお招きを頂き、訪問団は周郷会長を団長に市長、市議員4名を含む大人34名と市が国際交流事業の一環として実施した高校生海外派遣事業に参加した市内在住高校生10名の総勢44名です。訪

問団はダラス・フォートワース国際空港に到着後、フォートワース市内のストック・ヤード（家畜取引所）やMBLテキサス・レンジャーズの本拠地を見物しながらバスでタイラー市に移動し、タイラー市での5日間の友好親善活動をスタートしました。

18日午前、晴天のタイラー市役所において八千代市・タイラー市の姉妹都市提携20周年記念式典が行われました。この式典はタイラー市の市長、市議員の列席、タイラー姉妹都市委員会メンバーに加え、市役所幹部が出席し、八千代市訪問団に対する歓迎ムードの中、開催されました。バーバラ・バス市長は「今年は皆さんを我がまちに迎えることができ、大変嬉しく思います」と歓迎のあいさつ。また、豊田市長からは「ローズ・フェスティバルにお招きいただき感謝します。タイラー市を再び訪れ、皆様から温かい心遣いを受け嬉しく思います」と多くの八千代市民と共に訪問できたことの幸せをスピーチしました。高校生の今泉さんからは「私たち高校生はアメリカの生活事情を学びたいと思っています」と述べて「今、少し緊張しています。今回は短い滞在ですが、出来るだけ多くの人々とお話をして、帰国後は更なる友好交流の促進に貢献したいです」とスピーチしました。周郷団長からは今回の訪問団受入計画に対する協力に感謝の意を述べた上で「この式典は非常に歴史的で記念すべきものとなりました。今年、タイラー市への訪問団募集をしたところ多くの八千代市民が強い興味を示し、参加を希望されました。この記念式典開催などで示された協力と友好関係は決して途絶えることなく、末永く継続するものと考えます。この素晴らしい関係が今後とも維持されることを切に願っています」とあいさつし、記念式典を締めくくりました。記念品の交換、両市長の共同宣言と続いた後、永年、タイラー姉妹都市委員会のコーディネーターとしてご尽力いただいた故カズエ・ヒヨシ・ジョンソンさんを追悼する「楓」の植樹が市役所の庭で行われました。

このほか、テキサス大学タイラー校の保健・医療研究センターをはじめ、タイラー・ジュニア・カレッジ、タイラー美術館、地球&宇宙科学教育センター、ローズ・フェスティバル、ローズ・クイーン戴冠式、ローズ・クイーンのお茶会、ホーム・ビジット、フェアウェル・パーティなどを見学等があり、楽しく過ごさせていただきました。

最後に、これまで多くの国内・海外旅行に出かけましたが、今回の訪問のように5連泊し、同一地に留まる旅行は初めてでした。タイラー姉妹都市委員会の皆さんの温かい歓迎で、多くの人々と懇談できたことはアメリカ南部の地方都市の市民生活を理解する上で貴重な経験でした。

■ 安福久子

八千代台西

タイラー市長バーバラさんより姉妹都市20周年記念は、ローズ・フェスティバルに合わせてタイラー市までという2年前の約束で、今回は初めて高校生10名を含め、総勢44名でテキサス州タイラー市を訪問しました。

タイラー市は緑豊かな自然の中に、ちょうどバラの花が満開という素晴らしい季節でした。それにも増して、皆様方の温かい歓迎ぶりに感動しました。中でもやはり、ローズ・フェスティバルの戴冠式とパレードは圧巻でした。

私としても嬉しいことがいくつかありました。まず、ウ

エルカム・パーティでいきなり後ろから抱きついて来た人がおり、振り返るとパメラさんでした。その後ろにはウイリアムさん一家がニコニコしているではありませんか。この一家は2年前、八千代市に訪問されたときにホームビジットをご一緒した方々で、その時に覚えた日本のパフォーマンスで出迎えてくださいました。ウイリアムさん一家とは訪問中もいろいろな場所でお会いし、そのたびにこのパフォーマンスがあいさつ代わりにになりました。そして、さよならパーティでは、パメラさん、ラリーさん姉妹が涙を流しながら、今回の訪問でまた会いましょうと別れを惜しみました。

もう一つ嬉しかったのが、ホーム・ビジットでうかがったメザイクさん宅です。このご夫婦は、前回も八千代市を訪問されていて、その思い出話をお孫さんにされたのでしょう、13歳のマイケルくんが八千代に大変興味を持ち、今回は是非訪問したいとのこと、全員で八千代での再会を約束しました。とても楽しみです。また、その折に奥様が「八千代で作った器です」とガラスの大皿にお料理を入れて出されました。その心遣いに、あの暑い日の九十九里のガラス工房での作業が昨日のこのように思い出されました。

そのほか、テキサス大学訪問やディナーへのご招待等々楽しかったタイラーでの4日間も、あっというまに過ぎてしまいました。今回を機会に、是非若い人たちにも参加をほしいと思います。体験の素晴らしいは何事にも勝るのではないのでしょうか。この交流事業が末永く続くことを願っております。



■ 山田伊玖子

勝田台

三度目のタイラー訪問でした。なつかしい街、なつかしい人々。毎日よいお天気に恵まれ、タイラー市の人々から細やかな心遣いで歓迎され、素晴らしいパレードや戴冠式にも参加でき、とても楽しい日々を過ごさせて頂きました。20周年記念ということで高校生10人も初参加、総勢44人。市庁前には記念植樹、カズエさんの思い出として「もみじ」が植えられました。バーベキュー・パーティの20日の夕方、薄暗い中歩いていた私の左脚が突然、ストンと落ち込み、太ももの位置で圧縮停止、皮膚と筋肉が押しつぶされ、巾約25センチの裂傷を負い、会場に居合わせた看護師、パム・ディヴィスさんの車で救急病院に運ばれました。途中、「いたくない?」とか「寒くない?」とか、やさしく話しかけながら、ずっと付き添っていただきました。通訳のフミエさんが見え、お医者さんとの詳しいやりとりがあり、いろんな検査の後、手術を受けましたが、皮膚の表面の手術痕には29本のホットキスの針が並んでいました。フミエさん

は明け方3時過ぎまで付き添って、ホテルに私を送り届け、血で染まった私のズボンを洗濯して、翌日主人に届けてくださいました。主人も病院に運ばれる等、皆さまには大変お世話になり大変なご迷惑をおかけしてしまいました。また、添乗員の高階さんも私が病院からホテルに戻るまで、私のことを気にかけてくださり、何かとお忙しいのに余分な仕事が増え大変だったと思います。

20周年記念という素晴らしい年に私たちが汚点を残してしまい申し訳なく思っております。皆さま本当にありがとうございました。

山田桂三

勝田台

今回、八千代・タイラー市の姉妹都市提携20周年に当たり家内と共に4回目の訪問で懐かしい知人、友人等と再会してきた。最初訪問したのは10年前の平成14年で、その時のタイラー側の交流協会会長はパット・ジョーンズさんで、その間その会長さんは3代にわたり変わっているが、今回は20周年だからとパット・ジョーンズさんが「20周年記念は私が是非会長で栄えある記念式典を執行したい」と80歳の高齢にもかかわらず、会長職を引き受けられたと聞いている。そんな経緯もあってか、タイラー美術館やタイラー・ジュニア・カレッジの見学会では、すべてパット・ジョーンズさんが先頭に立って、てきぱきと指導力を発揮される姿には本当に感心したものであった。

それに八千代側では、何と言っても画期的事業は八千代在住の高校生10人の派遣であった。彼らは多くの希望者の中から選ばれただけあってタイラーでの行動は実に見事であった。特に10月18日市庁表敬訪問時の八千代松陰高校3年生・今泉若菜さんは、今回の高校生のリーダーに選ばれただけに、実に堂々と英語スピーチをやり遂げたのには感心した。続いてその夜のゴルフ場レストランで開催された「歓迎会」で、千葉英和高校3年生の入江魁刀君は私も同テーブルだっただけに、その様子が手に取るように観察出来た。家内が気を使って食事を薦めても食事を取らず、スピーチの暗唱に専念していた。本番のスピーチでは、途中で詰まりながらも、堂々と最後までスピーチしてほっとした気持ちがストレートに伝わってきたのを覚えている。後で多田さんに聞いてみると、彼は自分で進んでスピーチを希望したとのことであった。最後のサヨナラ・パーティでの成田国際高校1年生の横川舞夏さんは、タイラーでの経験した体験談をスピーチに入れるために、前日にその内容を白鳥友風君と合作で考えたことで、彼らにとって大変だったと思われた。帰国して千葉英和高校のレイ・フリコ先生に会って入江君の話をしたところ、フリコ先生から「彼が英文科であれば皆の前でスピーチの練習をするが、普通科で学校でも特にそんな練習もしなかったから余計大変だったと思う」とのコメントを頂き、更に「彼にはタイラー訪問前に電話で英語のスピーチの要領を教えたが、帰って来て私にお礼のチョコレートを持って来た」ことをお聞きし、当日の緊張した彼の顔を思い出し、彼の心優しさをかい間見たようで嬉しかった。今回の高校生代表のタイラー訪問は大成功であったと思う。

次に、今回私ら夫婦にとって忘れられないのは、訪問中に大きなトラブルを起こし、関係者に大変ご迷惑をおかけしたことである。事故は3日目の10月20日のパーベキュー・パーティの席上で起きた。日暮れ時、広大な庭園を歩い

ていた家内がタイラー湖に面した栈橋のすき間に足を突っ込み、大たい部29針を縫う大けがをし、その傷を見た私が貧血を起こし倒れるという事故が発生し、タイラーの方々や同行された八千代の方々に非常にご迷惑をおかけした。パット・ジョーンズ夫妻や前会長のベティ・パウア夫妻は心配して深夜11時まで付き添って頂き、更に医師との通訳をして頂いたトニー・タダサさんやフミエ・モルトンさんには、何とお礼を言っているか分からないほどの親身にわたる看護を頂いた。翌日のサヨナラパーティでは家内は欠席したが、出席した私に対して、上記の方は勿論のことパーバラ市長、パークンス夫人、マッカラご夫妻や多くの方々から心温まる励ましの言葉やヒルズ夫人からは涙を流しながら「伊玖子の傷が大きいようだから、しばらく私の家にとり留めて治療したらどうか」との申し出も受けて感激したものだった。帰宅してからもパット・ジョーンズさんから事故の発生した時のタイラーの方々のろうばいぶりやけがの状況を心配し、一日も早い回復を願っているという心温まる手紙を頂いた。

今回の訪問はこのようなトラブルを起こしたが、このトラブルを乗り越えて両市の関係がますます深まり、将来の発展につらなることを心から念じている。

小林道夫

大和田新田

私は、まず今回訪問団に参加された皆様へ、お詫びと感謝を述べさせていただきます。ダラスに到着した時の私の不始末によって、皆様に多大のご迷惑をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。また、その際に皆様が困り果てていた私に対して、温かいご支援ご協力を賜りましたこと、本当にありがとうございました。

私は、今回で三度目のタイラー市親善訪問でした。最初は16年前、1996年タイラー市市制施行150周年記念行事に招待された時でした。二度目は、交流10周年目の2002年にローズ・フェスティバルに招待されたときでした。このときは、生憎雨降りパレードが中止となってしまいました。そして、今回(2012年)が三度目の訪問となりました。姉妹都市交流20周年のときとなりました。

タイラー市は、訪問するたびに都市としての発展拡充が見られ、ちょうど我が街、八千代市の様相と似通った親しみを感じるようになってきました。また、この20年間の交流を通してタイラー市と八千代市の交歓交流の在り方が双方で理解できたのではないかと思います。特に、初めて高校生10名の派遣参加は、姉妹都市交流にとって大変大きな成果を挙げたと思います。今後の姉妹都市交流事業の継続と発展に寄与する成果であったと思います。これで終わることなく、これを始めとして是非続けていただきたいと思えます。私は、訪問団の一員として記録写真の撮影という役目を仰せつかっていましたが、初日に私の不手際で持参したビデオカメラを破損してしまい、予想外の事態に十分な記録が撮れなかったことが悔やまれます。皆様にも申し訳なく思っております。

タイラー市訪問は、私にとって親善交流の実は大いにあったと感じておりますが、個人的にはミステークの連続で不徳のいたすところと恥じ入っております。最後の「オチ」は、やっと手に入れたレザー製のジャケットが、左ボタン付きの婦人ものであったことでした。残念!

これまでの タイラー市への訪問団名簿

(順不同・敬称略)



▲調印式に向け、成田空港であいさつをする仲村市長

第1回訪問団(平成4年度) 宮崎宏/大木昌/山崎保昭/伊原隆雄/小村昌三/橋爪忠/川崎隆司/片木伸一郎/飯田猪一郎/原勝夫/多田久子/千葉正/石山理操/田波宗玲/山崎寿徳/石井庄一/星直子/上野茂/宮本隆行(市主催)

※仲村和平/秋田和男/春山正勝/土屋吉弘/三橋伸一郎/大平純一郎/レイモンド・サリバン(市長及び同行市職員)

第2回訪問団(平成5年度) 周郷紀男/周郷千代子/安藤正昭/宮崎秀雄/桜井清久/秋葉琢磨/木原広貴/宮下修/片岡博夫/安福久子/奥村宗平/吉橋秀/花島美記/浜尾静代/桑原雅之/真崎貴美枝/長尾みち子(市主催)

※奥山智/春山正勝/山崎昌司(同行市職員)

第3回訪問団(平成6年度) 達谷窟庸介/長岡利香子/齋藤千城/関谷藤之/秋葉則子/高橋映華/岩井奈緒美/小牧直美/角谷美智子(八千代国際姉妹都市委員会主催)

第4回訪問団(平成8年度) 山崎寿徳/小林道夫/桑原将彦/後藤明彦/加瀬卓/岩井清/末澤章子/奥山和子/宮永澄江/斎藤瑠璃/笠原紀美/高橋美和/井上昭子/高橋くら/奥田次子/石井美和子/江見久/藤縄肇/東正三/東泰子/大川与四郎/大川光子/幸田充雄/幸田満知子/中村賢一/井出経一/大和理夏/榎戸君子/堀田勉/小林正樹/有若茂/松田弘道/山田清一郎/沖野信美/石井尚子/阿部光江/中川美根子/市東加代子(八千代国際姉妹都市委員会主催)

※大澤一治/大沢治一/三橋伸一郎/豊田直子(市長・議長及び同行市職員)

第5回訪問団(平成10年度) 周郷紀男/周郷千代子/桑原将彦/高橋秀行/井出経一/宮澤正安/横山三枝子/角谷美智子/小島圭二/三橋伸一郎/大石知子/本田逸子/秋山昌江/三井若菜/仲村秀一/島村隼人/山田貴弘/杉山智基/野口泰延/野口フミ/八木節子/安西悦子/後藤

敏子/三浦幸子/伊藤道子/青木重之(八千代国際姉妹都市委員会主催)

※大澤一治・須田早苗(市長及び同行市職員)

第6回訪問団(平成14年度) 周郷紀男/周郷千代子/東正三/東泰子/飯田明彦/泉妻敦子/井出経一/伊藤法子/大原裕子/岡崎千代子/小澤敏光/川島慎一/小久保幸子/小林道夫/駒田宣子/志村留美子/杉田千穂/鈴木トキ子/鈴木敏哉/高館香織/野神良子/藤井朝子/丸山静枝/丸山英信/森田健一/山田伊玖子/山田桂三/與那まり子/綿貫哲夫(八千代国際姉妹都市委員会主催)

※大澤一治/大岩泰/鈴木訓(市長及び同行市職員)

第7回訪問団(平成17年度) 周郷紀男/周郷千代子/小林正継/谷村正人/進士豊夫/進士知加子/渡辺繁/渡辺勝子/山田桂三/岩瀬邦生/梅田典枝/横山和以/小林正雄/小林公孝/鈴木幸子(八千代市国際交流協会主催。以後掲示なし)

※豊田俊郎/大平純一郎/三上博文/井上起美代(市長及び同行市職員)

第8回訪問団(平成20年度) 周郷紀男/周郷千代子/山田桂三/山田伊玖子/野神弥一郎/野神良子/綿貫哲夫/関戸信夫/井出経一/井出雄己/小林公孝/木村百合子/林利彦/田久保良/茂呂剛/豊田京子

※豊田俊郎/大平純一郎(市長及び同行市職員)

第9回訪問団(平成24年度) 周郷紀男/周郷千代子/江野澤隆之/山口勇/原弘志/林隆文/小林公孝/小林蓉志子/安福久子/多田久子/多田久尚/嶋野勝美/小島圭二/後藤敏子/当山麻里子/山田桂三/山田伊玖子/廣田啓治/廣田伸子/岩井覚/小林道夫/泉妻秀一/泉妻敦子/斎藤輝夫/斎藤貴美子/小川剛毅/野神弥一郎/野神誠一朗/野神良子/福島ミヨ子/石塚則子/入江魁刀/白鳥友風/巨健太郎/今泉若菜/大角麻亜紗/大空未弥/木村萌/武村智花/横川舞夏/和多田桃 石塚 巖

※豊田俊郎/山本博章/米ノ井正樹(市長及び同行市職員)

編集後記

カズエ・ジョンソンさんがお亡くなりになってから早いもので、もう2年7か月が過ぎようとしています。私も仕事上、この方には大変お世話になり、本当に残念の一言でした。心よりご冥福をお祈りいたします。今回、姉妹都市交流20周年記念で冊子を作ることから、カズエさんとの思い出も含めて編集させていただきました。緑色は「八千代市」を、黄色は「テキサス」をそれぞれ意図しています。また、広報広聴課の皆さんにはお忙しいところ写真の件で大変お世話になり、ありがとうございました。(三橋)

祝タイラー市・八千代市姉妹都市交流20周年

次の団体会員の皆様からお祝いの言葉が寄せられています。

明るい社会づくり八千代市推進委員会/千葉北部酪農農業協同組合/ボーイスカウト八千代地区協議会/八千代交通安全協会/八千代市管工事共同組合/八千代市建設業協会/八千代市茶道連盟/八千代市商店会連合会/八千代市農業協同組合/八千代商工会議所/八千代青年会議所/八千代東ライオンズクラブ/八千代ライオンズクラブ/八千代ロータリークラブ/習志野・八千代地区保護司会八千代支部/八千代市芸術文化協会/八千代市社会福祉協議会/八千代市医師会/八千代市薬剤師会(順不同・敬称略)

